

陽明門（国宝）

この門には、中国の賢者、中国の古典、子供、動物など 500 体以上の人物が精巧に彫られている。一日中見ていても飽きないことから、「日暮し門」という愛称で親しまれている。京都の旧平安神宮の 12 の外門の一つで、正式名称を「陽明門」という。門を守る二人の弓矢は、平安時代（794～1185）の天皇の護衛の姿を表している。

門の装飾の多くは比喩的な意味や精神的な意味が込められている。例えば、12 本の柱のうち一つの柱の様子は、逆さになっている。日本では、何かが完成の域に達した瞬間、すぐに衰退すると言われている。柱の「間違い」は、東照宮が衰退しないように、ひいては徳川家が衰退しないようにするためのものだったのだろう。もう一つ、徳川支配を視覚的に表現しているのが「麒麟」のモチーフである。麒麟とは神話上の徳のある獣のことで、現世に現れるのは平安と善政の時だけと言われている。

腰折れ屋根の両脇にある曲線の唐破風は、寺院や宮殿の門や入り口によく見られるものである。